

# ブロッコリーを柱とし地域環境保全・複合経営持続強化プラン

大山町認定農業者 金田正志

後継者 有本満里子

はじめに

専業農家として、果樹（梨・梅）水田（芝）を栽培。複合型農業経営を営んできましたが、予想以上のスピードで高齢化が進み近隣集落に荒廃地・耕作放棄地が多く見受けられるようになり、その農地を借り受け以前（H12年）より栽培経験があり、組合として栽培指導及び販売体制が確立しているブロッコリー栽培の拡大を図るとともに、ブロッコリー産地の維持確立・地域農地の保全管理はもとより景観向上に少なからず貢献できたと思います。

平成20年から平成28年までの営農活動

- ① H20年にチャレンジプラン支援事業を活用し、トラクター・ラジコン動噴・追肥の簡素化、台車による収穫で収穫作業の軽減など、ブロッコリー作業の様々な面において作業効率が向上しブロッコリー栽培面積の拡大という目標を達成してきた。
- ② 持続性の高い農業生産方式の導入  
食の安全・安心志向が強くと求められる一方、環境にも配慮する栽培を実践  
有機質肥料栽培で「きらきらみどり」を作付  
地力増進作物の鋤き込みで地力アップを図り、品質向上と増収を図る
- ③ 果樹（梅）栽培の継続
- ④ 複合作物の加工
  - a)梅は一部梅干しに加工し、アスパルにて販売し好評である
  - b)銀杏については収穫・処理調整作業がブロッコリー収穫作業と重なり、近年有利作物に押され手が回っていないのが現状である
- ⑤ 雇用の創出  
ブロッコリー栽培面積を拡大したことで、ブロッコリー出荷調整作業（5月～6月・10月～3月）また梅収穫（6月）に近隣住民の労力を活用することで雇用の場を創出することができた。
- ⑥ 平成28年に家族経営協定を締結して、後継者への技術・経営の継承及び役割分担を明確化した

以上のようになりますが、H20年から積極的に農地の利用権の増大を図り、特に「遊休地・荒廃地」を中心に活用し規模拡大に繋げてきました。そして、長女が昨年8月より「親元就農促進支援事業」により研修を始め、後継者となるべく頑張っています。私共も、確たる後継者となる様全身全霊をもってこれまでに培った経験を余すことなく指導する所存です。現在の大山ブロッコリーをさらにパワーアップした産地ブランドとして確立させることに貢献できると思います。また、今年度、町より優秀経営農業者として県の方に推薦していただき、地域の担い手農家として益々頑張っていきたいと思っております。今があるのは地元地域の皆様の理解協力はもとより、過去の2回（豪雪・秋の長雨）の大きな試練に心が折れそうなときに支援を頂いた皆様（県・町・JA）への恩返しが少ないでも致したく、ここに一層の飛躍を誓い「がんばる農家プラン」を提出いたします。

1. 生産経営の現状

(1) 生産・経営の現状

作物	所有地	借入地
梅	50a	
ブロッコリー	204.7a	374.9a

(2) 労働力 (H28年)

農業従事者		従事日数	従事状況	役割分担
金田正志 (本人)		200	専業 (事業主)	果樹・野菜主担当 作業日誌主担当
		300	専業 (従事者)	作業日誌副担当 農業簿記・青色申告主担当
		130	研修中	果樹・野菜副担当

(3) 目標年の労働力 (H33年)

農業従事者		従事日数	従事状況	役割分担
有本満里子		300	専業(事業主)	果樹・野菜主担当
		300	研修中	果樹・野菜副担当 作業日誌副担当
		200	補助員	作業日誌主担当
		200	補助員	農業簿記・青色申告主担当

## (3) 農業機械・施設

農業機械名	台数	規格・性能	導入年
トラクター	1	30PS	H20新品 (チャレンジプラン活用)
トラクター	1	18PS	H28中古
スピードスプレアー	1	500ℓ	H26中古
ラジコン動噴	1		H20新品 (チャレンジプラン活用)
乗用管理機	1	2条	H21新品
全自動移植機	1		H22新品 (リース事業)
軽トラック	1	4w	H20新品
ミニバン	1	4w	H22新品
普通トラック	1	1.25 t	H29中古
農作業場	1	1156 m <sup>2</sup>	H14新築
ビニールハウス	1	6×17.5m	H20新品 (チャレンジプラン活用)
乗用管理機 (防除)	1	400ℓ	H23新品 (リース事業)
ビニールハウス	1	6×25m	H18新品
ビニールハウス	1	6×19m	H4新品
乗用モア	1		H24新品
フレールモア	1/4		H27新品 (がんばる地域プラン活用)
ブロードキャスター	1/4	200ℓ	H26新品 (がんばる地域プラン活用)
トラクター	1	45 p s	H30予定 (がんばる農家プラン事業)
作業場・格納庫	1	10m×4.4m	H30予定 (がんばる農家プラン事業)
冷蔵庫	1	6.6 m <sup>2</sup>	H30予定 (がんばる農家プラン事業)
乗用管理機	1		H31予定 (がんばる農家プラン事業)
乗用防除機	1		H31予定 (がんばる農家プラン事業)
深耕ロータリー	1		H31予定 (がんばる農家プラン事業)
全自動移植機	1	乗用2条	H32予定 (がんばる農家プラン事業)

## (4) H19年～H28年までの栽培品目と面積

(単位: ha)

栽培品目	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年
初夏ブロッコリー	0.8	1.3	1.2	1.2	1.3	1.4	1.5	1.5	1.6	1.6
秋冬ブロッコリー	3.2	4.15	4.6	4.9	5.0	4.9	5.0	5.0	6.0	5.0
きらきらみどり		0.45	1.0	1.2	1.1	1.3	1.0	1.0	1.0	0.8
梅		0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5
合計		6.1	6.1	6.1	7.4	7.9	8.1	8.0	9.1	7.9
ブロッコリー年間出荷量 (ケース)	7,958	9,494	10,665	10,958	7,961※1	11,209	11,677	13,197	14,912	9,552※2

※1 平成23年のブロッコリー年間出荷量は、年末年始の豪雪による被害のため減少した。

※2 平成28年のブロッコリー年間出荷量は、秋の長雨による被害のため減少した。

## (5) チャレンジプランでの事業の成果

(単位: ha)

栽培品目		H19	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年
初夏ブロッコリー	目標	0.8	1.0	1.2	1.2	1.2	1.2
	実績	0.8	1.3	1.2	1.2	1.3	1.4
秋冬ブロッコリー	目標	3.2	3.5	4.0	4.5	4.5	4.5
	実績	3.2	4.15	4.6	4.9	5.0	4.9
きらきらみどり	目標	0	0.2	0.4	0.6	0.6	0.6
	実績	0	0.45	1.0	1.2	1.1	1.3

## (6) H28年雇用実績

作業名	時期	人数	※総数
ブロッコリー出荷調整	5月～6月・10月～3月	3人	50人役
梅収穫	6月	4人	30人役
畦畔草刈り	6月・9月	3人	20人役

※「1人役＝1人当たり1日8時間」として算出

## 2. 農業経営目標

H20年からH28年の9年間にブロッコリーの規模拡大に取り組んだ結果、地域環境の保全に寄与することができ、我家の農業経営の一層の安定とそれなりの所得向上が達成できました。また、これまでに培った知識や経験を後継者へ伝え、さらに農業機械や施設の課題の改善を図り、一緒になって地域を守り農業経営の一層の飛躍を目指し、次のような経営目標を定めました。

- ① 人・農地プラン及び地権者からの農地受託、休耕・荒廃農地の再生受託等により農地の集積と拡大を積極的に推進し、農業経営の規模拡大を図る。
- ② 現在の抱える課題の改善を推進し、更なる経営の飛躍を目指し、後継者とともに一層の農業経営の安定化と所得向上を図り、農業振興・地域貢献を高める。

## 3. 栽培作物の取り組み

## ①ブロッコリー

10月～4月中旬の収穫期間を平均的な収穫量になるように作付けする。

「きらきらみどり」を10月下旬より収穫、環境にやさしい農業経営を推進する。

地力増進作物の鋤き込みを増やし地力アップを図り、品質向上と増収を図る。

- ③ 梅 ブロッコリー栽培との労力分散を図る。

#### 4. 課題と対策

##### 【課題】

- ① 急激な高齢化に伴い不耕作地が多くなり、また今後集積が見込まれる農地や既に集積済みの農地は遠方に有り、トラクターでの移動に多大な時間が発生し、作業効率低下の大きな要因になっている。
- ② ブロッコリーの定植時期は天候が不安定な時期の作業であり、トラクターでの圃場作りは的確なタイミングが要求され、短時間で速やかな作業が必要とされる。また、移植作業の効率化も合わせて必要である。  
安定供給と増収増益を生み出し、また栽培面積拡大につなげるためにもトラクター作業・移植作業の作業効率を向上させることは重要である。
- ③ 規模拡大に伴い作業機械も増えたが、収納スペースがなく野晒しにしている機械もあり、機械の低寿命化と故障の要因となっている。
- ④ ブロッコリー収穫作業の軽減  
ブロッコリー栽培の中で一番問題であるのが収穫作業である。
  - a) 深夜作業は身体に多大な負担をかける
  - b) 待ったなしの収穫タイミング
- ⑤ 自然災害に強い農業経営  
特に湿害対策は、平成 28 年の秋の長雨による被害を受けたため喫緊の課題である。
- ⑥ 農薬撒布労力の軽減  
高温時の防除作業は身体にきつい作業であり、安全に効率よく作業をすすめる必要がある。

##### 【対策】

- ① 後継者の育成・女性農業者の活躍  
〇就農により後継者への技術・経営の継承を図るために「家族経営協定」を平成 28 年に締結した。  
大型特殊免許取得・農業研修会に参加することにより、女性経営者を育成し、地域の活性化に繋げていく。

#### 「家族経営協定」の現在とこれからの取り組みについて

##### 現在の取り組み

《経営役割分担》 ※各担当は P 2 を参照

- 1) 生産活動の中で野菜部門では各機械作業を担当し作業効率を上げている。また、それぞれの圃場において肥料施肥計画を担当
- 2) 農業簿記・青色申告記帳を担当
- 3) 作業日誌記帳を担当

〇 支給する

《就業条件》

- 1) 1 日の労働時間は、昼夜は別にしてもおおむね 8 時間である。
- 2) 休日は雨天日であり、まだまだ目標とはいかない。

##### 今後の取り組み

〇の経営移譲と長男が早期退職での就農の意向を示している。

② 規模拡大に対応するための機械施設整備

- a) トラクター・ハイスピード移植機を新規導入し、圃場間の移動や耕運・移植作業の時間短縮化を図り、作業効率の大幅な改善を目指し、栽培面積の拡大に対応する。
- b) 機械格納庫を建築し機械の長寿命化を図る。

③ 収穫時間帯の改善による労働負担の軽減

収穫時間の緩和を図り、深夜作業の労働負担の軽減のため冷蔵庫の導入を図る。  
 冷蔵庫導入による収穫時間帯の改善により、日中収穫による作業効率アップと出荷商品ロスの低減、労働負担の軽減、近隣住民の雇用へとつなげる。

④ 排水対策

大雨・長雨対応として中耕土寄せ作業効率の強化のため、乗用管理機・深耕ロータリーの導入を図り、早期排水対策をとる。

⑤ 農薬散布作業の軽減

防除作業はブロッコリー作業の中でも重労働であり、乗用防除機を導入し防除作業効率を向上させ省力化へつなげる。

5. 今後の具体的な取り組みと役割分担

(1) 圃場の拡大と栽培作物の面積拡大計画

(単位：a)

作 目	H28 (実績)	H29	H30	H31	H32 (目標)
初夏ブロッコリー	160	160	200	200	250
秋冬ブロッコリー	500	500	500	450	400
きらきらみどり	80	80	100	150	200
梅	50	50	50	50	60
合計	790	790	850	850	910

(2) 役割分担

取り組む項目	実施年度	事業利用	事業主体 負担者
土地利用集積	H30～	—	農業委員会・農地中間管理機構・地権者・本人
トラクター導入	H30	◎	県・町・本人
作業場・格納庫建設	H30	◎	県・町・本人
冷蔵庫	H31	◎	県・町・本人
乗用管理機	H31	◎	県・町・本人
乗用防除機	H31	◎	県・町・本人
深耕ロータリー	H31	◎	県・町・本人
全自動移植機	H32	◎	県・町・本人

## 6. 支援事業の内容

(税抜金額：円)

取り組む項目	H30年度	H31年度	H32年度	負担区分
トラクターの導入(45PS)	6,280,000			県・町・本人
作業場・格納庫の建設(10m×4.4m)	2,673,611			県・町・本人
冷蔵庫		1,250,000		県・町・本人
乗用管理機		3,352,200		県・町・本人
乗用防除機		3,550,000		県・町・本人
深耕ロータリー		844,000		県・町・本人
全自動移植機(乗用2条)			2,500,000	県・町・本人
合計	8,953,611	8,996,200	2,500,000	

\*H30・31・32年度の本人負担1/2は自己資金(積立金)で対応